

6 学識経験者からの助言と対応

(1) 学識経験者からの助言と対応

本業務では、平成 29 年度及び平成 30 年度、学識経験者からなる委員会を設置して、本業務の測定結果、得られたデータに対する統計解析、暑熱環境の予測手法などについて必要な助言を受けてきた。

令和元年及び令和 2 年は、平成 30 年度までの暑熱環境測定に係わる調査等は終了したので、検討委員会は設置せず、委員会でのこれまでの助言などをふまえて実施してきた暑熱環境測定の実施状況等について、前年度までの委員会を構成していただいた学識経験者に報告して、助言等を求めた。

本年度（令和 3 年度）は、オリンピック、パラリンピックが開催され、測定業務を実施し終了したことから、令和 3 年の測定内容と結果を報告し、今後の熱中症予防対策に貢献できるよう、前年度まで助言を頂いた学識経験者に助言を求めた。

助言を求めた学識経験者は以下の 7 名

足永 靖信	建築研究所環境研究グループ長
石丸 泰	環境情報科学センター調査研究室長
小野 雅司	国立環境研究所環境リスク・健康研究センター
日下 博幸	筑波大学計算科学研究センター教授
齋藤 宏之	労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所上席研究員
澤田 晋一	東京福祉大学・大学院教育学部教授
堀越 哲美	愛知産業大学学長

測定内容が概ね前年度からの継続であること、新型コロナウイルス感染防止のため集合しての会議設定が難しいことから、各学識経験者に本報告書 1 章から 5 章までの図表等を用いた測定の概要について資料を提供し、助言を求めた。

資料については付録 DVD に収録した。

学識経験者からは、下記の通り指摘があった。

- ・令和 3 年度の暑熱環境測定の実施方法、結果については概ね妥当である。
- ・複数年度にわたり、オリンピック、パラリンピックの暑熱環境のモニターを達成し、暑さ指数の配信システムの検証データの蓄積も図った有意義な内容である。
- ・測定結果の有効な活用が必要である。